

2022

えーる!



▲たくさんの庭が集った「里山オープンガーデン」



▲3年ぶりに開催された「いっておかえり 鹿野市」



▲解体される鹿野公民館を、アートでお見送り。



▲勇壮な声が響き渡った「天神祭の綱代」



▲コロナ収束と平和を祈る、とうろう流し。



▲15年の歴史に幕「農家レストランたぬき」



▲御鎮座 1125 年の「二所山田神社式年大祭」



▲寒空の中たくさんの人が集った「鹿野小同窓会」



▲30 回目の記念すべき回を迎えた「銀嶺の舞」

まちづくり応援団 **えーる!**



花火で広がる人の輪 かの冬花火「銀嶺の舞」2021 開催

新年あけましておめでとう
とうございます。今年も1年よろしく願っています。

今回は、令和3年12月11日に実施され、29回目を迎えたかの冬花火「銀嶺の舞」についてご紹介します。鹿野の風物詩となったこの催しは、28回目と同じく鹿野小中学校グラウンドで、ドライブインシアター形式で行われました。

鹿野ファームプレゼンツと銘打ただけあって、会場ではおにぎり・おでん・フランクフルトなどの販売に加え、鹿野ファームの加工品販売も行われていました。今回は会場で使えるクーポン券がもらえたので、しっかりと使わせていただきましたよ。

さすがは12月、寒さ厳しい鹿野の夜でしたが、自動車に戻れば暖房の効いた専用席があるようなものです。これもドライブインシアターの利点ですね。

そんな「銀嶺の舞」を支えてくださっているスタッフの皆さん。自動車の誘導、飲食店の販売など……たくさんの力が集

まって、この催しができているんだと感じます。スタッフの中には友人の姿もあって、近況報告も兼ねていろいろ話をすることもでき、ちょっとした同窓会気分も味わえました。

友人や仕事の同僚など、いろいろな人ががんばっていることが実感できるのも、鹿野の催しのいいところですね。



子どもたちが心をこめて作った折り紙が添えられた、ポン菓子の配布もありましたよ。

進化する「銀嶺の舞」

花火の思い出と今、そして未来へ

「どうして、冬に花火があるんだろう？」初めて冬に花火イベントがあると聞いた時、わたしはまだ小学生でした。花火と言えば夏に上がるものと思っていたので、ちょっと不思議な感覚でした。

花火だけなら家の2階からよく見えていたものですから、電気を消して真っ暗な中、窓を全開にして、頬が痛くなるような寒さの中で、遠くに上がる花火を眺めていた記憶があります。

そんな冬を何度か過ごしていくうち、気が付けば12月になると「今年も花火が上がるかな」と期待するようになってきました。

社会人になって、会場まで花火を見に行くようになると、会場の熱気に驚くと同時に、ワクワクする気持ちを感じるようになりました。花火だけではなく、ライトをランタン風にして並べたり、総合体育館の駐車場をぐるりと囲むたくさんの出店だったり、特設ステージで行われるイベントだったり……まさに、1つのお祭りのような、そんな雰囲気だったことを知ってからは、寒い中ながら必ず会場に行くようになりました。

ある年は、雪が舞う中でイベントが行われたこともあり、また別の年には、しっかり着込んでいても足元から

寒さが上がってきて震えてしまうこともありました。鹿野の寒い冬の時期にあるイベントですから、花火のイベントを思い出すと、寒さに関係する記憶がたくさん出てくるように思います。

そんな中で打ち上がる花火も、会場で見ると家から見るとはまったく違う顔を見せてくれました。派手なレーザー光線の演出や音楽は今年も行われていましたが、それに加えて炎が吹きあがる演出がされた年もありました。昔の写真を見返してみると、ほぼ毎年何枚かは出てくる「銀嶺の舞」の写真に、その回ごとの工夫が見て取れました。

28・29回はドライブインシアター形式で行われていますが、今後もこのような形で行われるのか、それとも新しい形が生まれるのか、それはわかりません。

30回目を今冬に控えた、記念すべき今年の「銀嶺の舞」は、どのような形式で行われるのでしょうか。きっと、思い出に残るすてきな催しになってくれると思います。

令和4年、30回目の花火。そして、その先さらに続いていくであろう「銀嶺の舞」。まちづくり応援団えーるは、変わり続け、進化し続ける鹿野の冬花火の行く先を、これから追い続けていきます。

いま、鹿野のために できること



ま ちづくり応援団えーるの活動が始まって今年で13年。ずいぶん長い間、鹿野のことを紹介してきたと思います。そんな「えーる!」の今月号では、これからの鹿野について、ちょっと考えてみようと思います。皆さんもご存じのとおり、鹿野地域は年々人口が減少しています。これまで何度も紹介している鹿野の数々の催しも、人口が減少していけば、受け継ぐ人も減っていき、いつか開催できなくなってしまうでしょう。それだけではなく、鹿野地域としての営み自体が失われていってしまうことも

考えられます。そんな将来にならないようにと、鹿野のいろいろな人が立ち上がっています。例えば、鹿野の風プロジェクトの福田さんは、鹿野の未来構想と長期戦略戦術として、鹿野の魅力を高めるための活動をしています。コナラなどの雑木を植えたり、木製ベンチを各所に設置したりと、地域のイメージアップをはかる「木漏れ日計画」や、カフェの起業を通し、鹿野への集客や雇用・移住につなげるという「日本一のカフェの里」計画を考えられています。

鹿野でしか実現できないことをめざした「奇跡の町づくり」についてのチラシを、すでに目にした方もいらっしゃるかもしれませんが、確かに、わたしが子どもの頃と比べても人口は半分近くにまで減少し、高齢化も進んでいるという現実が、鹿野にはのしかかっています。しかし、ここで何もしないままでは終わりがなく、鹿野という地域が、これから何年、何十年と営み続けられるように、今こそ何かを考え実行していくときなのではないかな、と思っています。



○鹿野のメインストリートに、たくさんの人が歩いてくれるといいな、と思います。

チーム鹿野でめざせ 「人が幸せになれるまち」

東京から鹿野に移住されてきたウェブデザイナーの中村美江さんにお話をうかがいました。平成23年、東日本大震災がきっかけになり、ご主人が山口県出身であったことや、山口県の自然が自分の感性に合ったこともあり、鹿野へ移住された中村さん。どうすれば、この鹿野ですっと暮らしてもらえるのか？ 中村さんのお話を聞きながら、実は福岡からのUターン経験者であるわたしなりに考えてみました。

仕事



生活する上で欠かせない仕事。会社の事務所をすぐに誘致するのは難しいですが、インターネットを利用して文筆業やフリーランスの仕事をすれば、住んでいる場所は関係ありません。コロナ禍で注目されたテレワークという手段もありますね。実は中村さんとの話はインターネットを利用して行ったのですが、こうした話し合いをするのも、必ずしも対面でなくともできるんだと感じました。

事務所を構えるだけに留まらない働き方が認知され始めた今、鹿野にしながら日本全国、世界の会社とも仕事をすることができるようですよ。



価値観



移住を考える人たちは、当然ですが鹿野に暮らす人たちとは違った考え方、価値観を持っています。その価値観が、時にぶつかり合ってしまうこともあるでしょう。そんな時に、仲を取り持ってくれる人の存在が大事になってきます。鹿野に住む人は、新しい仲間を受け入れる気持ちで、移住する人は、地元の人に溶け込もうという気持ちで、手を取り合って歩み寄ることが大事だと思います。

鹿野の魅力の1つに、季節の恵みなどを分け合えることがあるという中村さんのお話がありました。野菜など自然の恵みだけではなく、皆が自分の生み出せるものを分け合うことができれば、「この人はこんな物を生み出せる人なんだ」と知ることにもなり、歩み寄りに一役買ってくれるかもしれませんね。



チーム鹿野で！



移住から、定住まで人の気持ちを動かすには「この町に住んで良かった」と思えるものが不可欠だと思います。鹿野は山間部にあり、まだ店も少なく交通の便も悪い場所。でも、ここにいると幸せ、そんな町になれば人は自然に留まってくれるのではないのでしょうか。

わたしが福岡から帰った時、強く感じたのは鹿野の「癒し」でした。都会にはないもの、例えば四季の自然であるとか、穏やかな時間であるとか……そういうものが、自分にとってとても幸せなものに感じられました。

しかし、人によって幸せを感じるものは違いますし、また、実現できることもたかが知れています。みんなで「チーム鹿野」を結成し、自分にやれることを続けていくことができれば、いろいろな幸せが実現して、鹿野に住む人たちにとって「幸せになれるまち」になってくれるのではないかな、と思います。

鹿野を応援する地域情報紙

えーる!

2022.3
Vol.77

動画でつなぐ 鹿野の未来



皆さんは動画配信サ
イト「ユーチュー
ブ」をご存じですか。誰
でも動画を公開できるサ
イトで、もしかすると視
聴するだけでなく、投稿
しているよ、という方が
いるかもしれませんね。

今月はユーチューブ上
で「まるごとかのくチャ
ンネル!」というチャン
ネルを開設し、鹿野の情
報発信を行っている塚田
竜二さんからお話を伺い
ました。塚田さんは障が
い者施設で職員をしなが
ら、カイロプラクティッ
クの施術を行うカイロプ
ラクターとしても活動さ
れています。仕事以外に
も、明るく元気な鹿野を
つくる会の副会長も務め
られているなど、精力的
に活動されています。

塚田さんが鹿野のこと
を配信するようになった
のは、会議の際に若者へ
鹿野の情報を発信するこ
と、何が効果的なのだろ
うという話の中で、ユー
チューブで動画を配信す
ることを考えたからなの
だとか。

令和3年に行われた成
人を祝う会で、新成人を
エスコートをした塚田さ
ん。その際に、動画配信

を手伝ってみたいとい
う人を知り合い、2人体制
で動画配信を行うことに
なりました。

動画制作で大事にして
いるのは、自分が楽しむ
こと。動画は一本作るの
も大変な工程があります
から、自分が楽しみな
らでなければ、なかなか
続けられることではない
と思います。

最初の動画配信は、天
神山の動画を公開されて
います。天神山公園から
さらに上へと上り、学生
時代の思い出と共に鹿野
の景色を紹介されていま
したよ。

●わたしも天神山に上ってみました。



しみ戻ってきてほしいと
いう思いを込めてのこと
だとか。

小学生の夢にも挙がる
ユーチューバーという職
業が鹿野でもできるのだ
と思ってもらえれば、一
緒に活動したり、鹿野で
動画配信をして生きてい
く人が生まれたりするか
もしれませんね。

「将来的には山口県全域
を対象に動画を作ってい
きたいと考えています。
鹿野以外の地域も取り上
げることで、鹿野と外の
地域を互いに紹介し、鹿
野から外へ、外から鹿野
へ、人の交流を生みたい
です」そう語る塚田さん。
塚田さんが配信してい
る鹿野の動画は、おおよ
ね月1回のペースで投稿
されています。

ユーチューブで、チャ
ンネル名である「まるご
とかのくチャンネル!」
で検索し、視聴してみ
てくださいね。

こちらからもリンクしています



動 画を撮るといって、いったいどんな機材を揃える必要があるんだろうかと思われる方もいらっしゃると思いますが、塚田さんはスマートフォンと外付けマイクを主に使われています。今はスマートフォンがかなり優秀なので、動画を始めると自体は、意外と敷居が低いのもかもしれませんね。

この日は塚田さんがご自身の配信準備もされるとのこと、本取材は、ふるさとマルシェかで行いました。

今回は、ソロキャンプに挑戦されるとか。しかし、キャンプ自体が初めてとの



●鹿野ファームのスペアリブ。動画内でおいしそうな料理に。。。。。

ただいま 準備中



ことで、どうやら視聴者の方からのリクエストにお応えする形でテーマ選択となったそうです。これも、楽しんでやるからこそ挑む気持ちになるというものです。

鹿野ファームの豚肉や鹿野のお米をはじめ、店内でキャンプで食べそうな食材を買い込んでいきます。

「今後は、石船温泉や鹿野ファームでも撮影を試みたいですね。農業をしている人とタイアップして配信を試みたいです」と今後の展望についても語っていただきました。



●このナガイモもおいしそうな料理になりました。

動画のテーマは、ある程度は決めて動き始めるそうですが、細かな部分は現地の様子を見ながら決めていくそうです。

今回もキャンプという大枠だけをまず決めて、いろいろな準備を始めていってしましました。

「県外の人と直接話す機会ができたり、久しぶりに会った人から声を掛けられたり、動画配信を始めてたくさんさんの声をもらうようになりまして」と語る塚田さん。

真冬の、しかもソロキャンプ初挑戦という撮影の様子は、まるごとかのチャンネルで配信されていますよ。

塚田さんの 「しあわせのはなし」

今回取材した塚田さんにとっての「しあわせ」。それは「いろいろな人と楽しみを共有するとき」だそうです。

昔から大勢で遊ぶことが好きだったという塚田さん。例えば、忘年会や飲み会、ゲームでも、複数人で楽しむことが好きなのだと語ります。楽しいことも、1人ではなくみんなでやれば、もっと楽しくなりそうですね。



みんなでつくる新しい庭 わくわくガーデン、始動



今年も里山オープンガーデンの季節がやって来ましたが、今回も鹿野に暮らす皆さんが造った庭園を楽しむことができそうです。

今月の「えーる!」では、オープンガーデンを見て「自分も参加したい!」という思いをかなえようとしている田中京子さんをご紹介します。

上の写真の場所には、もともと家があったそうです。ここで合宿所をしたいという思いを持っていた田中さんでしたが、夢かなう前に家は解体。その跡地に、庭を造ってみたいと思ったそうです。

しかし、庭造りは初挑戦の田中さん。思いはあれど、実現までは至っていませんでした。そこに里山オープンガーデンの発起人である福田さんが声をかけ、今回の計画が始

まったんですよ。

近隣住民や親せきの人の好意もあって、庭を造る準備は万端。田中さんは「3年ぐらいの計画で、みんなが集まって、楽しく庭を造っていきたいです」そう、これからの展望を語ります。

わくわくガーデンと銘打って3月21日にスタートを切ったこの計画。この庭が子どもや孫の遊び場になってくれればという思いを持つ田中さんの思いが、庭造り参加者の皆さんとともに、夢から現実になるべく動き始めました。

裏面には庭のイメージ図を載せています。この庭が現実になって、子どもたちが喜び、思い出に残る庭ができる……そう思うと、まさに「ワクワク」してきますね。みんなで力を合わせて、夢を造っていきましょう!



庭づくりの 仲間募集中

作業は定期的に行っていきます。毎回参加できなくても大丈夫。少しでも力を貸したい、一緒に庭を造りたいという人は、ぜひ一度連絡してみてくださいね。

作業日 毎月第1月曜日(雨天時は第3日曜日に延期)の9時~12時

問合せ 田中さん ☎090-9460-0470

福田さん ☎080-6311-4079

思い描く庭のカタチ

中心部にはロータリーや駐車場を設け、鹿野にやって来る人にとって欠かせない自動車を庭の間近に止め、すぐに庭園を楽しむことができるようになりそうです。

小川沿いには、ウッドデッキが建設され始めています。このデッキから、ぐると庭園を見回すなんていうこともできそうですね。



この場所で子どもたちがトマトを採ったり、小川で魚を釣ったり、そういう体験をして楽しんでほしいという思いも込められています。田中さんの「しあわせのはなし」にも通じる思いですね。

敷地の隅にある蔵もポイントの一つです。リフォームにより、雨宿りや休憩のために使用したいと考えているのだとか。



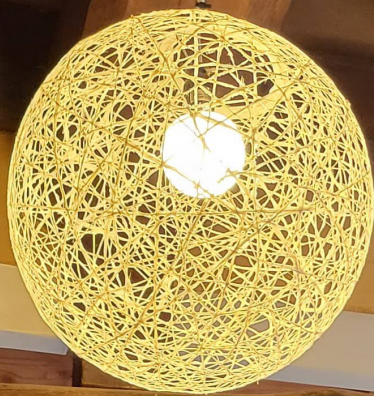
庭園内の花壇はレイズドベッドという、立ち上げ式で背の高い花壇を採用する計画です。間近に花を見ることができだけでなく、高い位置に花壇があるため、花壇の手入れも低い花壇よりしやすいんですよ。

田中さんの家族が描いた、夢のイメージ図。このままの形になるのか、よりよく変わるのか……まだまだ分かりませんが、きつとすてきな庭ができそうな予感がしますね。

／ 田中さんの

しあわせのはなし

田中さんの「しあわせ」についてお伺いすると「落ち葉拾いをして焼き芋を作るような、ちょっとした自然体験ができる場所がほしいと思っていました。自分たちが造ったこの庭で、子どもたちがちょっとした自然体験をすることで『今日、ここに来てよかったね』と楽しんでくれる姿を見ることが、しあわせのかなと思います」と語ってくださいました。



地域が育てる 古民家の整体院



整体院かよ、というお店をご存じでしょうか？ 西河内公民館の隣にある古民家を利用して令和2年に開業した整体院です。今月号の「えーる!」は、整体院を営む藤本香世さんにお話を伺いました。

病気がちな父親が、整体で少しでも楽になってほしい……という思いから整体を始めた藤本さん。資格取得後、結婚・子育てを経て、身内への施術や、北海道でスーパカレーのお店を営んでいるお兄さんの所で店の福利厚生の一つとして整体を行っていたそうです。

本場の整体は医療行為でもあるそうですが、藤本さんの行う施術はヨガの要素を取り入れ、体質改善や、女性特有の頭痛や疲労感などの不定愁訴を治すことに主眼を置いています。ヨガを組み合わせることで、施術後の生活の中でも、自分の体をコントロールできるようになってほしいという思いからのことだとか。

取材中、自律神経を整え、リラクセスする効果があるユーカリの香りが漂っていました。施術だ

けではなく、アロマオイルを使って感情を整え、体に触れるだけではなくさまざまな方法で心身を整えてくれていることを感じます。

「朝起きて体が痛い」と、とても辛さを感じるものです。施術を受けた次の日、体が楽になるように、お客さんに寄り添える施術をしたいと考えています。体の調子が悪いと、気持ちも沈んでしまいますから、施術によってその方の体質を活かし、潜在的魅力を引き出し、人生を豊かにするお手伝いをめざしています」と、施術する上で第一に考えていることを語る藤本さん。

その思いを支えてくれる地域の皆さんについても話してくれました。

「古民家を整体院に紹介してくださったり、お庭をきれいに管理してくださる大家さんや、整体院の看板を作っていたいた地域の方……ずっと、地域の方に育てていただいているんだな、と感じています」

地域の方をはじめ、たくさんの方に支えられた整体院を、ぜひ一度利用してみてくださいね。



「整体院かよ」

営業日 平日9時～17時

※施術は女性限定です。

問合せ 藤本さん ☎ 090-3814-1355



古民家整体院の景色

整体院を開業する場所を探し、いくつかの候補からこの古民家に決めたのは、2階の窓から見える景色や、家の雰囲気を入ったことだったとか。家も、その前に広がる庭も、とても手入れが行き届いた素敵なたたずまいなんですよ。

藤本さんが場所を決めた理由の一つである、窓からの景色が上の写真です。空と山、家々に、畑の様子……まさに、鹿野らしい風景が楽しめる眺めですね！ この古民家の中

で、特に目を惹くのは、天井にわたる太い梁です。100年もの年月を経たというこの木材は、今なお現役で、しっかりと建物を支えているように感じました。この長い年月や、梁が露出した家のつくりにも鹿野らしさを感じることがができます。土壁の様子などもとても趣きがあり、一見の価値がありますよ。

藤本さんが鹿野らしさを感じ、選んだこの古民家の雰囲気も、施術とともに楽しんでほしいな、と思います。



3年ぶりの“いっておかえり” 鹿野市、復活

令 令和4年も半分近くが過ぎ、もう梅雨の季節になりますね。今月号の「えーる!」では、5月14日に3年ぶりの開催となった「いっておかえり鹿野市」についてご紹介します。

例年、5月と10月に行われていた鹿野市は、令和元年10月の第16回を最後に、新型コロナウイルスの影響が深刻化し始めた令和2年、3年と開催されないままになっていました。

今回、久しぶりに開催された17回目の鹿野市では、これまでの会場である旧山代街道の走る鹿野中心部だけでなく、その隣の道である鹿野商工会さんや鹿野小学校のある通りも会場にして行われました。

総合案内所となっていた旧廣本金物店さんを中心に、更生保護女性会や鹿野PTCAの皆さんなどによる出店が行われました。

それに加えて、会場のあちこちから聞こえてくるのは、鹿野小・中学校の児童・生徒の声。あちこちのお店から、店員として、そしてお客さんとして、やって来ている子どもたちの声が、とても明るく会場のあちこちから響いていました。

総合案内所のある通りだけではなく、旧山代街道沿いの通りでは貞舛酒屋さんや竹本さんの焼きそばなど、以前から参加されている方に加え、愛ちゃん家を使った鹿野婦人会さんのバザー、瀧本さんによるポン菓子も加わって復活した鹿野市を盛り上げていました。

新型コロナウイルスの影響により多くの催しが中止になっていた鹿野。そんな中でも活動を続けていらつしやる方々に加え、こうして中止になっていた催しがまた開催されたということは、とても嬉しいことだと思います。

天神祭やかのふるさとまつり、冬花火「銀嶺の舞」など、形を変えて続行したり、残念ながら中止となっていたさまざまな催し。鹿野の元気の象徴ともいえるこうした催しの数々が、同じように復活したり、もっと盛り上がったっていい、そう感じました。



●裏ページでは、鹿野市を歩いて感じたことを綴っています。





鹿野市を 歩けば



「久しぶりに鹿野市をやる」……その話を聞いたのは、今年の春頃のことでした。ついに鹿野市復活か、と心躍らせながら迎えた当日。昨日までの雨模様は嘘のような快晴に恵まれました。高原ならではの涼しい風が吹き抜ける中での鹿野市。今回から会場になった鹿野町商工会のある通りがにぎやかな様子は、他の催しを含めても、なかなか見られない光景でした。

会場に着いて、まず感じたのは、子どもたちの明るい声でした。わたがし作り体験に歓声をあげる児童や、高齢者生産活動センターの製品の説明をする生徒たち……こうした声を聞いてみると、知らず知らずに気分が高まってくるような気持ちになります。大人たちに混じった子どもたちが、地域の催しにスタッフとして参加したことを、いつまでも覚えていてくれると嬉しいな、と感じました。壁に貼りだされた、鹿野小学校児童によって描かれたポスターや、同日開催されている「かくれがマルシェかの」のマップなどを見ていると、ふと名前を呼ばれました。以前、お世話になった方が、鹿野市にいらっしゃっていたんです。何年もの間、言葉を交わす機

会もないままでしたが、近況を聞くこともでき、なんだかとても懐かしい気分になりました。また、驚くことに、高校時代の友人も鹿野市に出店していました。久しぶりすぎて、なかなか確認が持てなかったのですが、言葉を交わして「やっぱり!」となりました。聞けば、家業を継ぎながらいろいろな場所に出店しているのだとか。同級生のがんばりを知ることができて、とても嬉しい気分になりました。

もちろん、いつも鹿野のためにがんばっている人たちとも出会う機会になります。がんばっている人たちの近況を聞くことができ、自分もがんばろう、一緒に何かできることはないか、など、鹿野に対する思いを新たにすることができいい機会になりますね。鹿野市に限らず、こうした催しの場は「再会の場所」なのだ、と常々感じます。普段の生活の中ではなかなか顔を合わせることができない知人と出会うことができる。「最近どう?」元氣でやってる?」と言葉を交わし合うことが出来る……これも、催しの大事な側面の一つと言えるのではないだろうかと思います。

ありがとうの気持ちを込めて 旧鹿野公民館まるごとペインティングアート



昼 間の暑さがだんだん厳しくなり、夏を感じさせますね。

今月号の「えーる!」

では、6月12日に開催された「旧鹿野公民館まるごとペインティングアート」をご紹介します。

6月末から取り壊しが始まる旧鹿野公民館を見送るイベントを行いたい……そんな思いから、鹿野出身の倉富洋介さんを中心に、鹿野に移住した皆さんをはじめとする地域住民有志が集まりました。そして、ありがとうの思いを込めて、旧鹿野公民館をペイントし、見送ろうというイベントが計画されたんですよ。

5月29日から壁の青い塗装が始まり、そこに鹿野小・中学校の皆さんによる絵が描き加えられました。

下準備を終え、迎えた6月12日。晴天に恵まれた会場には、子どもたちを始め、たくさんの方が集まりました。

公民館、 ありがとうございました!



「中学校の時に、この場所でも文化祭を行ったことや、鹿野町最後の成人式をしたことを思い出します。皆さんも、それぞれに思い出があると思います。ペイントをしながら思い出を語り、ありがとうという思いで公民館を見送ってほしい」倉富さんのあいさつで始まったイベントで、皆さんの思い出を聞いてみました。

「私たちは新館で最初に結婚式を挙げました。挙式した44年前のことを思い出し、今まで、元気でやっていたけれど、これからも元気でやっていこうと思いました。子どもや孫世代が参加するイベントを、これからも応援していきたいです」という人や、二分の一人成人式を行ったという人……取材しながら、ここで演劇をしたり、成人式をしたりしたなあ、と自分の思い出も浮かんできました。

「公民館ありがとうございました!」とみんなが声を掛け、イベントは終了。みんなに素敵な思い出ができた一日でした。



●ペンキ入り風船を、思い切り投げる！



○色とりどりの手形とスタンプが壁を彩りました。

ペインティングアート スナップショット

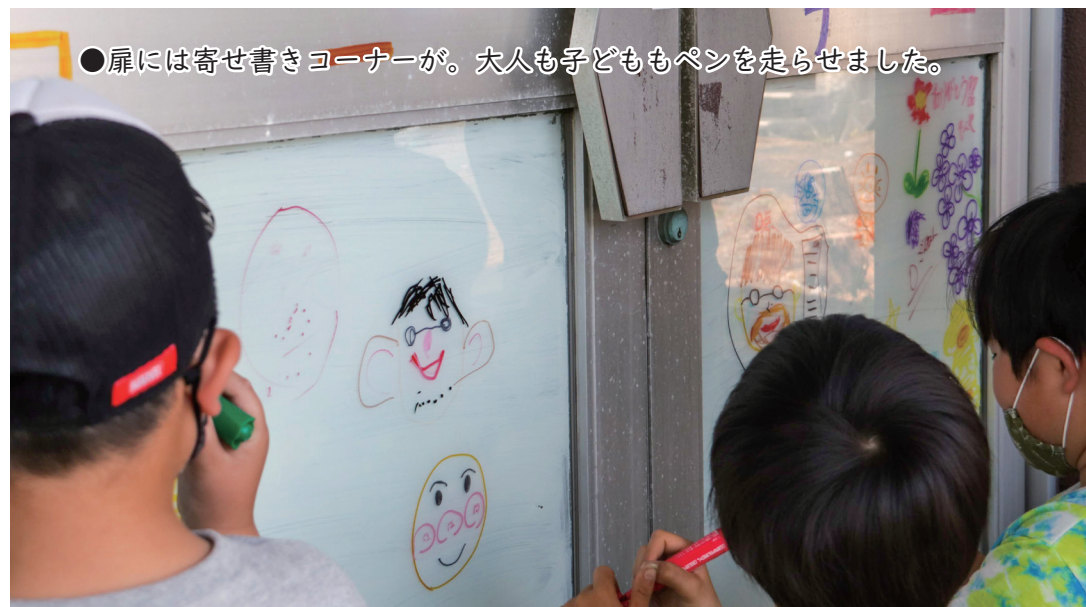
5月29日から続けられていたアートの土台に、手形やスタンプを使った「鹿野の森型押し」や旧館を風船に入れたペンキで彩る「ペンキ風船投げ」が行われました。公民館を利用したことがないという子どもたちも、「最高」「楽しかった」「風船を投げるのがおもしろかった」と、楽しそうにイベントに参加していました。

●館内の階段もなんだか懐かしい。



○このステージにも、たくさんの思い出が詰まっています。

●扉には寄せ書きコーナーが。大人も子どももペンを走らせました。



「誰にもやさしいまちづくり」 ～福祉の目線でつくるまち～

暑

さも本格的になってきて、すっかり

夏になった感じがしますね。今月号の「えーる!」

では、鹿野に拠点を置き、「誰にもやさしいまちづくり」を理念に掲げて活動する、ギャップ・フィリング株式会社代表取締役・藤本真樹さんと、社内部門でマネージャーを務めている、岡崎麻衣さんにお話をうかがいました。

隙間（ギャップ）を埋める（フィリング）という意味の名前を持つこの会社は、令和3年の9月に設立されたばかり。地域生活の中にある課題を解決し、笑顔になれる余裕を生み出したいという思いで、例えば介護保険が適用外の部分など、隙間を埋めていきたいと考えているのだとか。株式会社である以上、ビジネスを行うことにはなりませんが、その活動の根底にあるのは、福祉の目線です。福祉を通じてまちをつないでいく「まちつなぎ」をすることをめざす

ギャップ・フィリングは、藤本さんを含め3人で活動中です。

「大局を、一人の力で変えることは難しいと感じたこと、仲間を作りたいと感じたことから、会社の設立に至りました」設立のきっかけをそう語る藤本さんは、NPO法人コネクト・ワンで理事長も務めています。

「ギャップ・フィリングとコネクト・ワンは法人形態こそ違いますが、2つの活動は車の両輪のようなもの。どちらの団体も『誰にもやさしいまちづくり』を理念に掲げています。やさしい人を増やしたと思っても、支援を受けた受け手がやさし

さを感じられないかもしれない。受け手である地域の皆さんがやさしさを実感できるまちづくりをしたいと思います」住みやすさや安心、困ったときに手をさしのべてくれる環境……こうしたものが存在するまちをつくるのが「誰にもやさしいまちづくり」という考え方なんです。

会社の活動範囲は、まずは愛着あるふるさとである鹿野地域から始め、周南市内、やがては山口県へと広がっていきたくて考えているそうです。福祉の目線からやさしい鹿野をつくりたいを考える藤本さんたちの活躍に、こうご期待です!

●会社理念を語る藤本さん



「となりの孫娘」のように人に寄りそう

やまのナースがつくるやさしいまち

ギャップ・フィリングの事業のひとつである、やまのナース。パンフレットに「となりの孫娘のように」「となりのママ友のように」とうたわれるその活動について、岡崎麻衣さんに質問してみました。

す。高齢化が進み、隣人の助け合いだけでは生活することが難しくなってきた。『助けて』と言えるまちを作りたいですね」

「公的支援の隙間を埋める事業とのことですが、どういった利点があるんですか？」

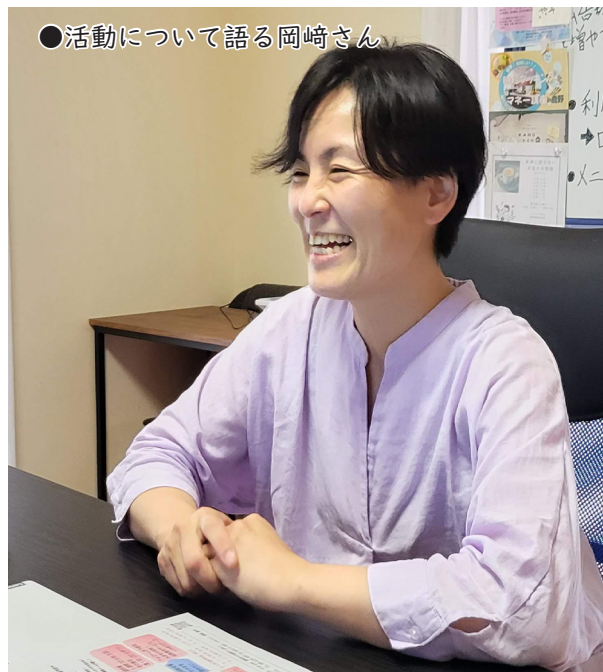
「やまのナースとはどのような事業なんですか？」
「看護師資格を持つ隣人が、生活の中の不安に寄り添い、安心して元気に地域で生活できるよう支援していく事業です。困りごとを聴き、その困りごとに対して解決策を考え、適切なところへつないでいきます。たとえば草刈りなど、地域の人で生活を守ることができるような仕組みをつくる」としてあります。地域で生活するために、誰かが助けてくれる、そんなしくみができるのが理想で

「看護師は病院内で働くイメージですが、地域に

いる看護師とは？」

「私も、元々は病院の中で治療の手助けをする看護師として働いていました。ですが、誰もがフラットな立場で、ふらっと立ち寄ることのできる地域食堂『ふらっと食堂』などの地域活動をしていく中で、入院する前の元気な時から関わることが大切なんだと気付きました。地域の中で生活する皆さんが、少しでも長く友人と笑い合える時間を過ごせるように、日々のちよつとした不安を安心に変えられるよう、寄り添いたいと考えています。よく『倒れたらお願いね』と言われるですが、そうなる前の『今』の健康を維持できることが重要になります。『ひとつの家庭に、いちナース』と掲げているのは、電話で地域の看護師『やまのナース』とつながっている、

●活動について語る岡崎さん



る、という安心を皆さんが持てたら、きっと心軽く日常を送ることができるようではないか、という思いからなんです。不安な気持ちには『やまのナース』へ置いていけばいいです」

やまのナースの活動は「エンツギ」と名づけられた場所を拠点に、地域みんなの居場所になり、またさまざまなことにチャレンジできる場所となるよう活動を続けています。



鹿野に暮らす人にとって、鹿野が安心して暮らせる場所になり、少しでも長く、笑顔で過ごせる場所になるよう奮闘する藤本さんと岡崎さん。「誰にもやさしいまちづくり」が進んで、きっと鹿野がもっと住みやすい場所になると思います。

ギャップ・フィリング株式会社の理念や展開中のサービスなどの詳細、お問い合わせは電話またはホームページからどうぞ。

☎ 0834-51-7897

ギャップ・フィリング



ギャップ・フィリング 株式会社
Gap-Filling corp. TEL.0834-51-7897
〒745-0204 山口県周南市大字鹿野丁1000番地03

トップページ 会社情報 サービス 実績 お問い合わせ

Don't put violence in our pocket
暴力はいらない



縁あって鹿野 ～縁起焼「叶家」～

朝

晩の寒さが強まってきた。夏の気配がだんだん秋になってきましたね。

今月号の「えーる!」では、8月10日に旧ボンブレッドさんの跡地で開店した、「叶家」さんについてご紹介します。

元々、光市のバッティングセンターの敷地で営業していた叶家さんは、2年前にセンター閉鎖によって移転先を検討したところ、大潮の知人から旧ボンブレッドの敷地を紹介してもらい、開店に至ったそうです。ログハウス調の建物も、かつてのボンブレッドさんが営業されていた頃そのままの雰囲気でした。



●お店の外観

叶家さんでは、皮のモチモチ感がとてもおいしいおまんじゅう「縁起焼」を主に販売しています。下関発祥の縁起焼は、そのまま常温で皮の食感を楽しみながらおいしく食

べることが出来ます。

夏の暑い時期であれば冷蔵庫でひんやりとさせて食べたり、冷凍させて自然解凍させて食べたりしてもおいしいですし、逆にレンジでアツアツにしてもおいしい。フライパンで皮に焼き目がつくまで焼くとカリッとした食感になって、これもおいしい……いろいろな食べ方をする事ができるんですよ。



●フライパンで焼いてみました。

叶家さんでは、縁起焼の他にパウンドケーキやクッキーなどの焼菓子、かき氷なども販売されています。取材中もひっきりなしに来客があり、とても賑やかな時間を過ごすことができましたよ。

モチモチでとてもおいしい縁起焼。持ち帰って家でゆっくり食べるのももちろんですが、素敵な雰囲気のお店で楽しむ……というのも、いいなと思いました。

縁起焼「叶家」

営業時間 10時～18時

場所 鹿野下730-2 (左の看板が目印です)

定休日 木曜日



Instagramでも情報発信中!

「叶家」さんを鹿野で開店した。この場所はお店だけではな
のは、光市で営業を行っていたく広い敷地がありますから、ピ
た梶原幸敏さんと、従業員のザ釜やバーベキュー場を造って
久樂さんのお二人です。お二
人に、鹿野の印象についてうか
がってみました。

梶原さんは7年前から光市で
縁起焼のお店を始めました。奥
様が鹿野の出身であったこと
や、以前に仕事で秘密尾地区に
来たこともあるというお話で、
昔から鹿野にはご縁があったそ
うです。
「鹿野は夏が涼しく、避暑地の
ようなイメージを持っていまし
そうなる予感がしました。」

縁起焼

温めても冷やしても
もちり食感がいつまでも味わえる
「縁起焼」饅頭
厳選された食材で
丹精込めて丁寧に焼き上げました。
赤食べてご縁を頂き
白食べて笑顔を起こす
笑顔があればきっと縁起がいいはずですよ。
皆様に良い縁起が起きますように。



○包装された縁起焼



○できたてのパウンドケーキと久樂さん

久樂さんは、毎月開催され
ているかくれがマルシェの喫
茶で、お菓子の販売を行って
いたのだとか。
そのご縁から、鹿野でお店
をやってみないかとお誘いを
受けたそうです。そのお話が
進み、ついに今回の開店に
至ったそうです。
「鹿野は何もない場所と思っ
ていたんですが、意外とお
しゃれな町でもあるんだな、
と思いました。今井にある、
ガーデンカフェアーにも行
きましたが、素敵なお店でし
るイベントをしてもいいなと

「縁起焼だけでなく、ケーキ
の予約販売などもしたことが
ある経験を生かして、洋菓子
分野も開拓していきたいです
ね。外にピザ金ができたら、
それを使ってお客さんと呼ば
びたいな」と話していました。

「縁起焼だけでなく、ケーキ
の予約販売などもしたことが
ある経験を生かして、洋菓子
分野も開拓していきたいです
ね。外にピザ金ができたら、
それを使ってお客さんと呼ば
びたいな」と話していました。





鹿野を応援する地域情報紙

印刷 週 月 予定リスト

インターネットで “えーる!” 鹿野をつなぐカレンダー

台 風が吹き荒れて大変な9月でしたが、無事にお過ごしてでしょうか。今月号の「えーる」では、がんばっている人の紹介をちよっとお休みして、鹿野のさまざまな人・活動などを応援することを目的に活動する本団体、まちづくり応援団えーるの情報発信方法についてご紹介します。

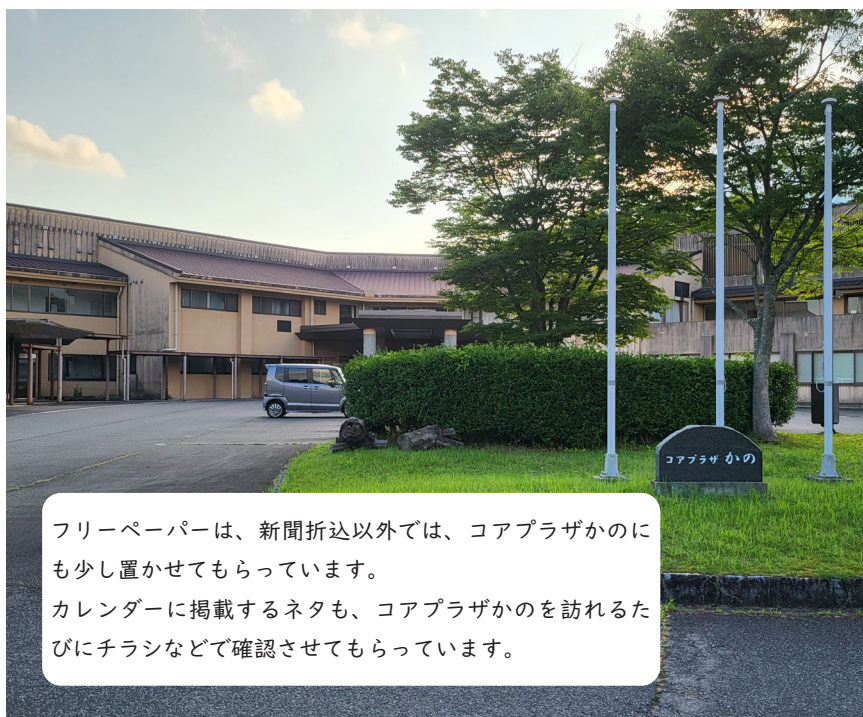
さまざまな情報を届けることで、鹿野に住む皆さんが、もっと鹿野のことを好きになってほしいという思いから、フリーペーパー形式で鹿野のことを紹介していますが、取材・編集の時間や、印刷にかかる費用などを考えると、月1回の発行が精一杯です。

しかし、鹿野の活動は、月1回ではご紹介しきれないほどたくさんあります。もっと素早く、紙面の両面を埋めるほどの取材をしなくても情報発信ができないだろうか、と考えて、インターネットを利用した情報発信を開始しています。

短文や写真を使った方法であれば、長時間の取材がなくても鹿野の魅力を手軽に伝えることができます。また、鹿野を離れた人にも、がんばっている様子を伝えることができます。遠くに住む鹿野出身の人にも記事を見つけてもらい、懐かしい気持ちになってほしいな、と思います。

また、これから未来に起こることをより簡単に皆さんにお届けする手段として、フリーペーパーはインターネット上にカレンダーを作り、鹿野のイベント情報をまとめて発信し始めました。まだ開始して1カ月程度、試行錯誤しながら、より良いものをお届けできればと思います。

フリーペーパーは一つのことを深く伝え、インターネットは多くの情報を広く伝える。たくさんの方の方法を使い、皆さんに鹿野をお届けできればと思います。

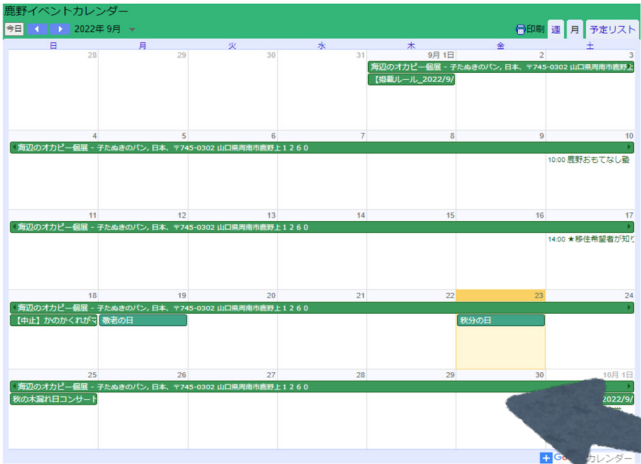


フリーペーパーは、新聞折込以外では、コアプラザかいのにも少し置かせてもらっています。カレンダーに掲載するネタも、コアプラザかいのを訪れるたびにチラシなどで確認させてもらっています。

インターネットで 公開している情報

インターネットでの活動をまとめた、まちづくり応援団えーるのホームページをご紹介します。
「ここに行けば鹿野がわかる!」をめざして、さまざまな情報を発信しています。

まちづくり応援団 **えーる!**



鹿野イベントカレンダー 申し込みフォーム

SNSアイコンなど

インターネット上で鹿野の情報を展開しているSNSの一覧です。フリーペーパーで書ききれなかった鹿野のことを、文章や写真、動画などを使って鹿野を紹介する「note」「Instagram」「Youtube」と、それらの活動を宣伝している「Twitter」「Facebook」を利用しています。団体規約や問合せメールも掲載しています。

鹿野の イベントカレンダー

チラシやインターネットで確認した内容を掲載しています。鹿野に関する催しなら、鹿野外で実施しても掲載していきます。カレンダー下の申し込みフォームなどから、情報をお寄せください。

※掲載可否はまちづくり応援団えーるで判断させていただきます。また、私事の都合で更新が間に合わない場合もあるため、ご了承ください。
※申し込みフォームの冒頭に注意書きを記載していますので、ご確認ください。
※基本的な文章の体裁は、カレンダー各月の最初に掲載しています。



さらに過去の「えーる!」や以前に発行していたフリーペーパー「くちコミ」



(C) 2009 まちづくり応援団えーる

フリーペーパーのバックナンバー

まちづくり応援団えーるが発行したフリーペーパー「くちコミ」「えーる!」のバックナンバーを掲載しています。1年以上前の発行号は年ごとにまとめて掲載しています。
この原稿については、著作権法の範囲で自由に印刷・配布してかまいません。(できれば、まちづくり応援団えーるの紹介をしてけると嬉しいです)

ぜひ一度、ホームページを 見てみてくださいね。

まちづくり応援団えーるのホームページは、SNSでの更新を含め、随時更新しています。紙媒体以外でも紹介する鹿野の魅力を、ぜひ一度インターネットでも見てみてくださいね。
ホームページへは、まちづくり応援団えーるで検索するか、下のバーコードを読み込むと、アクセスすることができます。

まちづくり応援団えーる



鹿野を応援する地域情報紙

えーる!

2022.11
Vol.85

願いを乗せて流れる 清流の灯ろう



秋

も本番になり、朝晩の冷え込みが強まっていますね。今月号の「えーる!」では、平成の名水百選に選ばれた清流通りで、10月1日に行われた灯ろう流しについてご紹介します。

新型コロナウイルスの収束や世界平和など、願いがかなうように、と作られた色とりどりの灯ろう。これは、鹿野に住む人をはじめ、たくさんの方が手作りした、世界にたった一つだけの灯ろうなんです。

この灯ろうは、イベント当日までコアプラザかのに飾られていました。

正面玄関入ってすぐのロビーにずらりと並んだ灯ろうをご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、灯ろう流し当日を迎えて、漢陽寺横の池に浮かべられた灯ろうたち。周囲がしだいに暗くなってくると、灯ろうの輝きがよりくっきりと浮かび上がります。

水路へ向けて灯ろうが進み始め、水路の勢いに乗って流れていくと、会場に集まった子どもたちは、灯ろうを追いかけるから「あの灯ろうが僕のだ」とか「僕の作った灯ろうはどこ?」と、楽し

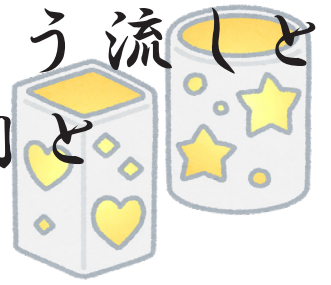
そうに自分の力作を探していました。

わたしも撮影のために灯ろうを追いかけたが、じっくり撮ろうとするとあつという間に灯ろうが流れてしまします。カメラのシャッターを切っては走り、切っては走り……としていると、かなり息が切れてしまいました。思わずそうしたくなるような価値がある光景でした。

今年で3回目になる灯ろう流し。これからも鹿野の皆さんが集まり、楽しいことがでる、すてきな時間になってくれるといいな、と思います。



と流ろう灯 と詞祝 り祈



漢陽寺横の池から水路を流れ、鹿野総合支所付近で引き上げられた、100個を超える灯ろう。

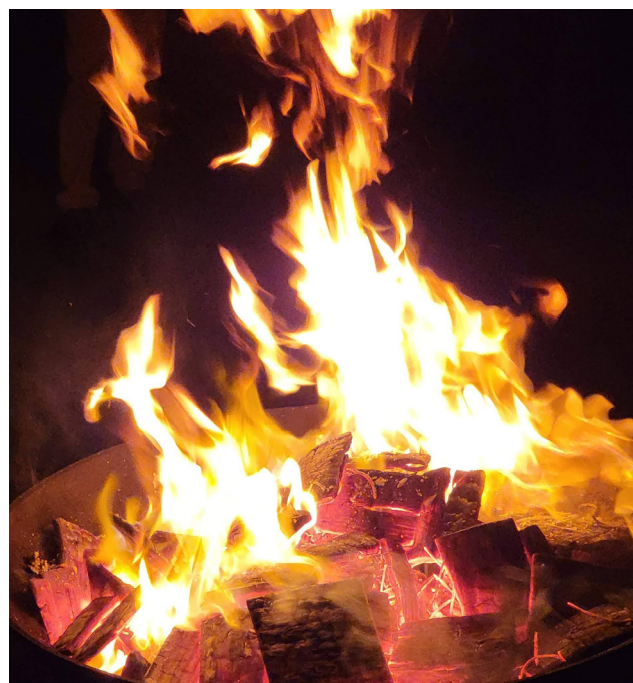
今からこれをどうするの
だろう、と思っていると、
神社の所まで運んでほしい
とのこと。それに従い、二
所山田神社の参道の階段に
灯ろうを並べていきます。
皆さんの灯ろうが放つ
暖かい光にあふれた参道に

参加者が集まると、宮本宮
司さんによって祝詞が奏上
され、皆が頭を垂れてお祓
いを受けました。

お祓いを受けた灯ろうを
手に、今度は龍雲寺さんの
駐車場に移動します。
周囲は真つ暗になってい
て、肌寒さも感じるような
時間になっています。そん
な中、駐車場に運ばれた灯
ろうが火にくべられ、お焚

き上げをされました。

参加者が周囲を取り囲ん
でいる前で燃え上がる炎
と、あつという間に燃えて
消えていく灯ろう。燃え上
がる炎の近くにいますと、パ
チパチという音とともに、
暖かい熱が感じられます。
灯ろうを追いかけて汗だ
くになり冷え始めていた体
に、炎の暖かい熱気が、と
ても心地よかったです。



姉妹で二人三脚 布が創り出す世界

●作品ポスターを手にする松永沙織さん（右）と藤本志織さん（左）

もともと、趣味でリカちゃん
の服だけではなく、さまざま
な手芸作品を制作されてい
た松永さん。こうした展示な
どを行うようになったのは、
ほぼ毎月開催されている「か
のかくれがマルシェ」主催の
岡崎さんからお誘いを受けた
ことがきっかけなのだとか。
かくれがマルシェで初出展
したことから、今回のギャラ

リカちゃん人形の服を
制作したのが松永沙織さん。
広報を担当する姉の藤本志織
さんと2人で活動されていま
す。活動の様子は、インター
ネット上でも見ることができ
ますよ。

このリカちゃん人形の服を
制作したのが松永沙織さん。
広報を担当する姉の藤本志織
さんと2人で活動されていま
す。活動の様子は、インター
ネット上でも見ることができ
ますよ。

「これまでに世に出したこ
うした妹の活動を支えて
いるのが姉の藤本さんです。
「これまでに世に出したこ
うした妹の活動を支えて
いるのが姉の藤本さんです。



今回のギャラリー展示は、
お二人だけでなく、光市で活
動されている「hana-tabo」
さんが描かれたイラストを布
に転写し、その布で制作した
服もあるのだとか。ただの布
ではなく、世界に二つとない
柄の布で作られ出される作品た
ちを、是非見に来てみてくだ
さいね。

「これまでに世に出したこ
うした妹の活動を支えて
いるのが姉の藤本さんです。
「これまでに世に出したこ
うした妹の活動を支えて
いるのが姉の藤本さんです。

「これまでに世に出したこ
うした妹の活動を支えて
いるのが姉の藤本さんです。
「これまでに世に出したこ
うした妹の活動を支えて
いるのが姉の藤本さんです。

フティック・リカちゃん× hana-tabo

会期 12月1日（木）～25日（日）の
木～日曜日 10時～17時

場所 子たぬきのパン 2F ギャラリー

詳しくは「子たぬきのパン」ホームページへ



松永さんに聞く

「手芸を続ける思い」

今回、ギャラリー展示を行う松永さん。小さな人形の服を制作される腕前は、一朝一夕で培われるものではありません。技術に宿る思いをうかがってみました。

「手芸を始めたのは35年ぐらい前で、小学校に入学するより前だったと思います。母親の見よう見まねで手芸を始めたのがきっかけですね」と振り返る松永さん。あくまで趣味として、お守りや正月飾りなどをフェルトを使って制作されるなどしていたそうです。

リカちゃん人形の服を制作したのは、約3年前のこと。職場の同僚から、娘さんが着なくなった服を、リカちゃん人形の服に仕立て直すことができないか……と、相談を受けたことがきっかけなのだとか。

「人形のサイズが分からないの

で、自分で人形を購入してイメージをつかみ、服を作りまして」と語る松永さんの手で作られた服を着たりカちゃんを見た娘さんが、「自分のお気に入り入りの服を、リカちゃんに着てる！」ととても喜んでくれたそうです。この出来事から、手芸作品のバリエーションとして人形の服が加わったそうです。

今回の展示では、制作した服だけでなく、カプセルトイで選んだ小物たちも一緒に作品の世界観を創り出します。細部まで気を配った演出があるからこそ、リカちゃんの日常のイメージが、より具体的になってくるんですね。

「リカちゃん人形の服を作るのには、1着に2〜3時間はかかります。自分がいいな、と思って制作しても、子どもの感覚と違っていることもあるので、子

ども服を見て、感覚を研究しています」という松永さんが気にしている制作のポイントは、写真写りです。目で見るのと、写真になったものでは、見え方も違ってくるのだとか。

「手芸はあくまで趣味で、自分にとってはストレス解消になっています。ちょうど仕事の異動なども重なり、少し時間の余裕ができたところに、かくれがマルシェのお誘いを受け、それが縁で今回のギャラリー展示につながりました」同僚からの相談から始まった服作りは、かくれがマルシェの岡崎さんのお誘いや、藤本さんの広報活動、そして子たぬきのパンギャラリーのうめざわさんと、デザインを描くLongtopoさん……たくさんのご縁が重なり始まる展示は、きつとすてきなものになってくれると思います。



このお弁当も、松永さんの作品のひとつ。具材一つ一つに至るまで、細かく再現されていますね！

こうした松永さんの作品が投稿されたSNS「Instagram」は、右のバーコードから見るができますよ。

